

平成20年度第4回定例会

日 時： 平成21年1月15日（木）午前9時30分～

場 所： 本館 打ち合わせ室

---

(事務局) (資格・スキルアップコーナー、開館日・開館時間に関するアンケート、本館の性別年齢自動推定システムの試行についての報告)

(副会長) 諮問の「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について」協議する。資料について、説明願いたい。

(事務局) 資料は図書館協議会の資料としてまとめたものである。中央図書館について、図書館が柱立てとして考えてきたものだ。もうひとつの資料は近隣の中央図書館の設置状況のリストである。

(資料の説明)

(途中、図書館主催の絵本読み聞かせ講座を見学)

(副会長) 先日の図書館見学には何名の参加があったのか。

(事務局) 3名である。

(副会長) 見学で何か、感じたことはあるか。

(委員) 関戸図書館はしっかりした輪郭を感じさせるものがあり、大活字本や辞典など、利用しやすく管理されている印象があった。豊ヶ丘図書館の閲覧室は明るい印象を受け、聖ヶ丘図書館はローカルな地域の結ぶつきに意を注ぎ、文化的統合を目指して努力していることに感心した。東寺方もフロアが木で、小さいながらも雰囲気がありよかった。会議の中で、ことばで聞くだけではなくリアルに触れることにより、市民の方々にも一定の役割を果たしていると感じた。

(委員) 先ほど講座を見させていただき、2歳以上のお子さんの保育をしているが、保育は何名いたのか。

(事務局) 3名である。

(委員) 保育の必要な子どもをお持ちの方に聞いてもらおうと、ずいぶん育っていくと思う。先ほどの説明の中で、児童の利用も少ないとあったが、これからの時代は赤ちゃんサービスも広がっている。赤ちゃんに対するサービスはいかがか。

(事務局) 赤ちゃんに対するサービスは、ブックスタートを平成14年度から開始している。1990年頃から「赤ちゃんから絵本を」という冊子を作り、赤ちゃんからの読書には早くから取り組んでいる。居心地の点ではハイハイができるよう、絨毯コーナーを設置しているが、問題点としてベビーカーを置くスペースが充分でなかったり、建物が赤ちゃんと大人との融合が難しく、大人の利用の妨げにもなったりする。

- (事務局) 本館は赤ちゃんとお母さんのためのおはなし会を開いているが、参加は多い。本館は大人の図書館と子どもの図書館部分と分かれているので、参加しやすい。
- (事務局) 本館の環境はいい。他の図書館はそうはなっていない。
- (事務局) 子育ての不安を和らげるため、そのような会のところで、具体的な安心に繋がっているかは把握できていないが、顔を合わせて交流をつくる場面は必要だと感じている。絵本かたりかけ事業について、3・4ヶ月児健診のときに絵本をボランティアが読み聞かせをしながら配布しているが、そこでの子育ての交流ができればと思っている。そのところの追跡調査はこれからになる。
- (委員) この資料に幅が広いということがわかるので、載せていただきたい。
- (委員) カタカナのことが難しい。ネーミングをカタカナで標記することによって、取り組みやすいということはあるが、一般市民には通用しないと思う。レファレンスについても同様だ。ここでいうレファレンスとは、何なのだろうという疑問点がいくつかある。
- (事務局) 多摩市の図書館では「しらべもの」として一般の方には案内することが多い。図書館のシステムを知っている、どこに何があるということを知っているのが図書館職員の専門性であり、詳しくなくても、キーワードをお客様から頂いて、連想ゲームのように発展させてご案内できることが、一般的な公共図書館のレファレンスにあたる。
- (委員) そのような返答を期待しているのではなく、独自のあつていいし理解もできるが、レファレンスの内容の豊かな説明を期待しているものである。今日のような講座などは、どのくらいあつてどのような形でなされているか、わかるものはあるか。
- (事務局) 先日送付した「多摩市の図書館」の冊子を参照してほしい。
- (委員) 実際はやっているが、表の中にうずもれてしまっていて、見えにくくなっているので、工夫はできないものか。例えば市民で昔の暮らしや昔ばなしなどに興味があり、研究して話を交わすような会などは、あるのか。図書館がやることではなくて市の他のところがやっているのか。
- (事務局) 図書館の活動はさまざまな形で結びつくことは可能である。今のお話のような市民サークルは活動している。図書館は、資料を通して市民の活動と連携している、図書館はそれを統括したり組織したりものではなく、自主的に動いて図書館と個々に繋がっていくものではないかと思う。
- (委員) 活動の場を図書館が提供したり、既成の会ではなく図書館を利用する会を組織するとかそういうことも可能ではないか。
- (事務局) 公民館や、行政の部分でもやっていたりする。そういったところと結

びつき、資料を紹介するとかブックリストを提供するといったことは今までもしてきたが、もう少し積極的に直接人と係わっていく。

(委員) 今日、この資料の6つの課題が提供されたので、今後ひとつずつやっていくのがいいかと思うが、でないとならば散漫になってしまう。

(副会長) では、図書館の資料の6つの課題以外に何かあれば出していただきたい。

(事務局) 書庫についてもみていただきたい。バックヤードには目を向けていただきたい。

(委員) 他の図書館にリクエストした本の定期便等あるのか。

(事務局) 1日2便ある。

(委員) 先ほど、廃棄の話があったが、よほどのことでない限り望ましくないと思うが、スペースがないという話だった。この学校の建物では、書庫にならないのか。

(事務局) 書庫はある。床の加重があるので、びっしりは置けない。

(委員) 書庫に冷暖房がないと聞き驚いたが、多摩ニュータウンの資料などはここにしかないと思うが、その資料も書庫にあるのか。

(事務局) 多摩ニュータウンの資料は2階にあり書庫にはない。

(委員) 貴重本といわれるものは、どこの図書館も温度や湿度に配慮しているので、そういったところには置かない方がいい。

(事務局) 理想の書庫の環境はわかっているが、書庫の環境が悪いのは、ご指摘のとおりだ。

(委員) 本の返却のブックポストは本館にはないのか。

(事務局) 安全管理上、あえて設置していない。多摩センターの駅前に24時間対応のブックポストがあるので、そちらを利用して頂いている。

(委員) 講座の参加者が少ない。図書館に対し市民のニーズはないと思う。特別の方だけにサービスしていくのがいいのか。根本的な部分について、図書館が市民を啓発し、本の大切さや魅力を伝える。学校も同じだ。図書館が先頭にたってやっていけば、自然に出てくると思う。検討されたらいいか。

(委員) 多摩市の学校図書館では司書を配置している。インターネットの構築もされており、教員としてはじめてのことでびっくりしている。学校と図書館の連携について、どのようにやっていったらいいかという意見を伝えることが役目かなと思っている。子どもたちにもアピールできればと思う。

(委員) 講座の参加人数等は気にしなくてもいいのではないかと。続けていく中で伸びていったり、波及していけばいい。いろいろなアイデアを巡らせることにより、いくつかのことに実現できるかもしれないと思う。

- (副会長) 私が図書館に感じるのは、しらべものをするとき不便を感じる。各館に資料が散らばっているんで、一ヶ所にある程度の量があると、日数がかからずに調べることができる。スペースの問題もあるだろうが、いろいろな要望に応えられるよう充実していくことが多摩市の課題である。
- (委員) 職員は市民がいつもどのように見ているか、意識すべきである。きちんと応え信頼を得ることが、浸透することになるので、司書を配置することなどやっていくべきだと思う。
- (事務局) 運営のあり方についても諮問しているので、機能とあわせて職員体制についての意見も、盛り込んでいただければと思う。
- (事務局) 今日の資料は諮問の切り口として提供したものである。また今日の資料で、学校も含め、そういった施設の係わり方が欠けていたように思うので、加えさせていただく。
- (事務局) 今の図書館の置かれている状況を検証して、多摩市としてはどのような図書館サービスができなくてはいけないのか、だからこのような中央図書館が必要かどうかといった結論を出していただくと事務局としては理解している。この資料は検証の材料である。
- (委員) 諮問が大前提として念頭にある。考える上で、いろいろな形で検討しようと、今日の資料をいただき便宜的に6つ出てきているが、いくつかを中心に、中央図書館のあるべき姿を考えていけばいいのではないかと。
- (副会長) この6項目を丁寧にやっていくと時間的に足りなくなってしまうが、項目別にやっていきながら見直していく、という感じでよいか。
- (委員) ここに書かれていることはお金があれば全てできることだ。項目別にやっていっても、活発には意見は出てこないだろう。この6項目に関しては1、2回でやって、大切なのは、図書館を利用していない人にアピールするかということだと思う。
- (副会長) 細かくやっていくのはやめて、この資料についてはもう1回ほどの定例会で意見を出していただき、そこで出てきた意見を盛り込むような形で、平成10年の答申とかみ合わせながら、前へ進めていくのがいいかと思う。
- (副会長) これで終了する。このあと、時間がある方は本館を案内する。お疲れ様でした。